

三浦先生からお聞きした事、地元住人に伝えたかった事

※ 美しかった外山御料牧場

外山御料牧場は、三か所の中で最も美しい高原牧場でした。

- 四季: 春夏の高原植物、秋の紅葉に加え、冬の幻想的な雪景色も牧場を彩りました。
- 景観: 山桜と李（すもも）の並木道、手入れされた庭園。
- 営み: 様々な種類の馬が放牧され、寒冷地という厳しい環境の中で寡黙に働く人々。

宮沢賢治も目にしていた、雄大な自然、人工美、そしてそこで働く人々の力が調和した特別な場所でした。

▣ 外山に残った人々の特別な思い

外山御料牧場が閉鎖された際、住人には他の場所（他の御料牧場や馬事施設）に移るか、外山の地に残るか選択をせまられます。

殆どの住人が外山に残る選択をします。主な理由は二つ。

- 生活の基盤: 開拓期から入植し、既に家や土地があったため。
- 皇室への敬意と信仰: 皇室の土地が無くなるとは思ってもいなかったことに加え、「いつか皇室がお戻りになる」と信じ、聖地である外山を守り継ぐという特別な決意があったため。宮内省は、住人の生活を支えるため、岩手県外山種畜場に託し払い下げました。

□ 三浦先生の『外山開牧百年史』編纂の決意

先生の百年祭事業・百年史編纂の目的は、外山の歴史と住民を守ることでした。

項目	目的と内容	結果
歴史の継承	外山の歴史を正確に書き残し、世に残すこと。	▲ 世に残す事は出来たが未完成
住民の融和	第一次・第二次開拓民と、第三次食糧開拓民の間に立ち、中を取り持つこと。	○ 開牧百年祭が出来た事
差別からの保護	冷害の風評や差別から、当時の子供たちの心を心配し守ること。自分の生まれ故郷を守りたい。	✗ 最も難しかった。歴史を伝えきれなかった悔いが残る。
行政への働きかけ	百年祭を機に、盛岡市民や岩手県民に外山の歴史を伝えるため、行政（自治体）に働きかけること。	理解を得られず、年齢的な理由もあり断念。
編纂の報い	行政への働きかけを断念した後に『外山開牧百年史』を見た、宮沢賢治研究家の池上先生が三浦先生宅を訪問。三浦先生は心から喜び、苦労が報われたと感じた。	『外山開牧百年史』編纂の「甲斐があった」と安堵。